

## ティーチング・ポートフォリオ

学科：幼児教育学科 氏名：竹内 啓

(記入日：2022年 8月 3日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

「保育内容の理解と方法（造形）」

「幼児造形指導法」

「子どもの造形」

「日本文化実技Ⅴ(1),(2)」(日本文化学科の実技授業)

「幼児教育体験学習」(幼児教育学科教員全員で担当)

「幼児教育演習」

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

将来、保育者になる学生がまず自分の五感で感じたことを大切にし、そこから自ら発想し考え、楽しんで表現や行動できる自信を育てる。そして子どもたちが表現を楽しみ成長できる機会を作るなど環境を整え援助ができるように導き支える。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

実際に自分の目で観察する機会を作り、観察したもの、ことがらを大切にし自信を持って表現できるよう一人一人の状況に合わせて丁寧にアドバイスしていく。

### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

授業内で一人一人の状況に合わせて指導していくのは手間がかかるが、苦手意識が強い学生が自分の表現に少し自信を持つようになってきている。

しかし既成の例を参考にするのも良いが、それを安易に真似するだけで自ら発想しようとしなない学生がいる。

### 5 今後の目標（これからどうするか）

きめ細かい声かけによりさらに一人一人の学生の感じ、考えていることを把

握しアドバイスの仕方を工夫して自信を持たせる。また他の学生がどのように発想しているかを紹介し、互いにアイデアのヒントを与え合うようにしたりしてやる気を盛り上げるようにする機会を増やす。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・ 製作した作品を集めた「スケッチブック」
- ・ 学生が記入した授業の「振り返り」、教員の「コメント」

## ティーチング・ポートフォリオ

幼児教育学科 菅井洋子

(記入日：2023年2月21日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

保育士資格と幼稚園教諭一種免許取得をめざす保育者養成学科へ所属しており、以下の「資格や免許取得にかかわる科目」及び「学科科目」を担当している。

〈資格・免許関連科目〉

「保育の心理学 (前期、1年次、必修科目、講義)」

「言葉」(前期、2年次、必修科目、講義)

「保育内容言葉の指導法」(後期、2年次、必修科目、演習)

「子どもの理解と援助」(後期、3年次、選択必修科目、演習)

「保育実習演習Ⅲ (事前事後指導)」(通年、3年次、必修科目、演習)

「保育実習Ⅲ」(通年、3年次、必修科目、実習)

〈学科科目〉

「幼児教育体験学習 (通年、1年次、必修科目、演習)」

「幼児教育演習 (通年、3年生、必修科目、演習)」

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

本学科がめざす保育者像(「子どもとともに生きることができる自覚ある保育者」「すべてのひと・もの・ことに感謝できる保育者」)や学科の特性をふまえ、専門的(学問的)知識に触れながら、保育・幼児教育における具体的な事例や体験等をもとに人の発達や子ども理解を深め、とくに「子どもの視点」から保育者の役割や援助、環境構成等を考え、意味を深く理解し、主体的に行動できるようになることを理念・教育目標として教育活動を行っている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学科内の「4年間の学びの流れ」や「各学年で学ぶ内容」、「保育実習・幼稚園実習」をもとに担当授業科目を位置づけ、授業間のつながりを考慮し関連づけ、他の授業とも連携しながら学生の学びが深まるように工夫した(以下に今年度工夫した授業例をいくつか述べることにする、下線科目が担当科目)。

例) 1年次「保育の心理学」〈乳幼児の発達〉と 2年次「子どもの理解と援助」〈子どもの実体験と発達に応じた援助等〉 ➡ 2年・3年次保育実習Ⅰ・Ⅲ

例) 1年次前期「保育の心理学」〈身体・運動・知覚・言語の発達等〉と 1年次通年「幼児教育体験学習」〈科学博物館見学での子ども体験からの学び、附属保育園での保育体験〉  
➡保育実習・幼稚園教育実習

例) 2年次後期「保育実習演習Ⅰ事前事後指導」と「保育内容言葉の指導法」「子どもの理解と援助」➡「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅲ」「教育実習」へ

学科内の保育内容の指導法を担当する教員で保育実習Ⅰと保育実習Ⅲの部分実習・責任実習を見通した授業計画を立て連携しながら授業を実施した。担当した「保育内容言葉の指導法」では、絵本を読む等の保育文化財をめぐる模擬保育を立案し、模擬保育時には「保育者役」と「子ども役」に分かれ、今年度は同時期に受講している「子どもの理解と援助」の授業で作成した実寸大の子どもたちを用いて子どもの目の高さから撮影しながら模擬保育に参加し子どもにとってどのように見えているのかの観点も含め考察することを試みた。子どもの目の高さから撮影した「写真」と、模擬保育実践を録画した「録画映像」による振り返りを実施し、個人、グループでの振り返りのもとに子ども理解を深めながら保育のPDCAサイクルを経験し、保育・教育実習への準備を実践的に進める試みを行った。

等

また、保育者になるための力を養うためには、多様な「人」と関わり協働しあうこと、そして様々な「道具や方法」を用いて活動すること等が必要である。そこで、授業内で複数の学生達が関わり協力しあうアクティブラーニングやICT活用の機会を設けている。パソコンやiPad、カメラ、子ども体験キット（視野メガネ）等の道具を実際に活用し、気づいたことや考えたことを伝え合い、表現する方法としてデジタル媒体や紙媒体を用いて発表する等、授業内容とともにこれらを意図的に導入する工夫をしている。とくに多様な双方向型、対話的授業を展開するために工夫している。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

学生の振り返り記述（コミュニケーションシート、Formsの記述等）や授業評価アンケートの自由記述欄をみると、クラス全員や他の人の意見をもとに「対話的に理解を深めることができた」「自分の好奇心や探究心を養うことができた」「さらに調べたい！他にどのような工夫があるのか？という意味で多くの疑問が生まれ、これからも探究したいと思った」等、授業者が理念・教育目標として考え、授業内で工夫して実践した多様な方法をめぐる記述がなされていた。

授業への参加方法や資料作成等の経験は、学生により差がみられることから、学生の現状を確認しながら多様な道具や方法に触れることができるように検討していく必要があると考える。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

今年度は、1年次から4年次まで全学年新カリキュラム対応の授業科目・内容で構成される初めての年であった。新カリキュラムでの各々の授業を4年間に位置づけ、連続性を考えながら、保育者に求められている力を養えるよう授業内容や方法、学科教員間での連携等を検討し実施した。今年度を振り返り、課題をもとに、科目間・教員間連携のもとに4年間見据えた取り組みを今後も進めていくことにする。

さらに、保育・教育実習の実態をふまえた教育活動を展開していくために、今年度から保育実習担当教員で授業改善等へ向けた取り組みに着手し始めた（「学生の主体的な姿をふまえた保育実習授業の展開に向けて：保育実習Ⅲの実態調査から」保育実習担当教員共著、教職センター年報、2023等）。今後は、近年の動向をふまえ、保育と感染症対策やICTとの関連も含めた実態に応じた実習指導や教育活動を展開していけるように、保育者養成4年間について実習担当教員間で連携・協働しあい縦断的に取り組んでいくことにする。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. 授業毎に学生が記述する「コミュニケーションシート」〈紙・Forms〉（未公開）
2. 学生による授業評価アンケート
3. テキスト

等

以上

## ティーチングポートフォリオ

幼児教育学科 古山 律子

(記入日：2023年2月10日)

### 1. 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

学科の専門教育科目(必修)、幼稚園教諭一種免許状および保育士資格取得に係る専門教育科目等を担当している。保育者(幼稚園教諭、保育教諭、保育士)養成における音楽表現全般に関する教育を担当している。

#### 【免許・資格に係る科目】

「保育内容の理解と方法(音楽)」(1年次 通年 保育士必修・教職選択必修科目 2単位 演習)

「幼児音楽指導法」(3,4年次 後期 保育士・教職選択必修科目 2単位 演習)

「子どもと音楽」(3,4年次 前期 保育士・教職選択必修科目 2単位 演習)

「保育内容表現の指導法」(2年次 後期 保育士・教職必修科目 2単位 演習)

「教育実習演習(事前・事後指導)」(3年次後期、4年次前期 教職選択必修科目 1単位 演習)

「教育実習」(3年次後期、4年次前期 教職選択必修科目 4単位 実習)

「教育実習演習(事前・事後指導)」(児童教育学科副免許、教職選択必修科目 1単位 演習)

「教育実習」(児童教育学科副免許、教職選択必修科目 4単位 実習)

「実習訪問」

#### 【学科科目】

「ピアノ演習」統括(2年次 通年 学科の独自科目 2単位 演習)

「弾き歌い演習」統括(3年次 通年 学科の独自科目 2単位 演習)

「幼児教育体験学習」(1年次 通年 必修科目 2単位 演習)

### 2. 理念 (なぜやっているか：教育目標)

本学科が掲げる「子どもと共に生きることができる自覚ある保育者」「すべての<人・もの・こと>に感謝できる保育者」を育成することを目指し、教育を行っている。保育者養成における音楽表現教育に携わるなかで、「みずみずしい感性と豊かな表現力を兼ね備えた幼稚園教諭・保育士となる人材を育成する」ことを目標としている。専門的知識、実践的スキル習得のために、学生が主体となる演習を実施している。

### 3. 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

専門的知識および実践的スキル習得のために、学生が主体となっていく演習においても、最新の知見を解説し、理論と実践を両輪で捉える授業を実施している。

「保育内容の理解と方法(音楽)」(1年次 通年 保育士必修・教職選択必修科目 2単位 演習)では、子どもの音楽表現に関する理解を深めるために保育内容の領域「表現」の専門的事項である音楽表現に関するテキスト『コンパス音楽表現』建帛社(2020年4月発行)を今年度も採用した。新要領・指針に対応する学修内容を確認し、教育の質を上げていくことを実践している。今年度は、テキストの中から新たに「環境を奏でる」というテーマを取り上げ、1分間の動

画制作を行った。学生は個人またはペア・グループで既成の詩の選択と朗読、画像と環境音の挿入、BGMの創作と挿入、編集を行い、Teamsにて提出し、後日鑑賞の機会を設けた。動画編集アプリ(Cap Cut)を使用し、幼児教育におけるICT活用の可能性についても検討する機会となった。また、ピアノ・歌唱の実技指導に関しては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策(手指の消毒、飛沫防止シートの使用、楽器の管理等)を徹底したうえで対面授業を行った。感染対策に鑑みクラスを少人数編成としたため、ピアノ初学者が増加するなか細やかな実技指導を行うことができ、学生の意欲向上につながった。ピアノ初学者向けの動画教材をTeamsにて配信し、授業だけでなく事前事後学習への支援を行った。

幼児教育学科では「保育内容の理解と方法(音楽)」(1年次)でピアノ・歌唱の実技習得を開始し、「弾き歌い演習」(3年次 通年 学科の独自科目 2単位 演習)にて応用的・実践的技能の習得へとステップアップしていく。しかし、弾き歌い技能の習得に大変苦勞する学生の姿も多くみられている。こうした状況を鑑み『できた!うれしい!子どものうた-3つのポイントで上手くなる』を共著にて作成し、2023年4月カワイ出版より刊行することとなった。練習する際のポイントを3つに絞り解説を執筆した。QRコードから演奏動画を読み取ることができるという現在の学生に有益なものであり、来年度より学生と共に活用していきたい。

「保育内容表現の指導法」(2年次 後期 保育士・教職必修科目 2単位 演習)では、受講者全員が歌唱、手作りおもちゃの制作指導などを発表する機会を設けて、様々な表現活動を指導するアクティブラーニングを実施した。さらに指導法に位置付けられている模擬保育について「環境」「人間関係」「言葉」「表現」の保育内容4領域が連携して授業を行ったことにより、専任教員による授業内容の議論が活発化し、ひいては学生の計画、実施、評価、改善への関心が高まった。主体的・対話的授業実践の工夫は、学生の課題発見力、実践力向上に役立った。

#### 4. 成果(どうだったか:結果と評価)

「保育内容の理解と方法(音楽)」では、実技や音楽理論の基礎の習得に成果がみられた。(エビデンス1)。「幼児音楽指導法」では、附属保育園児を招待したクリスマスコンサートの実施により、学生の表現力の向上および幼児の文化的実践との出会いについて検討する機会につながる成果が見られた(エビデンス2)。「保育内容表現の指導法」では、グループワーク、国内外の表現教育の紹介、4歳児の表現に関する短い動画視聴等を通じて、保育内容領域表現のへの理解の深まりが記録されている(エビデンス3)。

#### 5. 今後の目標(これからどうするか)

自身が共著にて関わった『できた!うれしい!子どものうた-3つのポイントで上手くなる』(2023)カワイ出版の教材としての利用可能性を検証し、さらなる音楽表現実技習得への成果に繋げていく。「保育内容表現の指導法」においては、音楽教育に限らず、幅広く乳幼児の表現を捉えて他の領域とも連携しながら、養成教育の質の保証、向上に努めていく。

#### 6. エビデンスとなるもの(資料の種類などの名称)

- 1 学生の授業内ポートフォリオ、Teams内保存データ(非公開)
- 2 クリスマスコンサート動画記録、写真(2022.12.21撮影)学生レポート(非公開)
- 3 学生の授業内レポート(非公開)

## ティーチング・ポートフォリオ

江村綾野（幼児教育学科）

（記入日：2022年9月24日）

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

- 乳児保育Ⅰ（1年後期選択必修科目 2 単位）
- 乳児保育Ⅱ（2年前期選択必修科目 2 単位）
- 子育て支援（3年後期選択必修科目 2 単位）
- 子ども家庭支援の心理学（3年前期選択必修科目 2 単位）
- 幼児理解の理論と方法（3年前期選択必修科目 2 単位）
- 保育教職実践演習（幼稚園）（4年後期選択必修科目 2 単位）
- 保育原理（1年前期選択必修科目 2 単位）
- 保育実習演習Ⅰ（事前事後指導）（2年後期選択必修科目 1 単位）
- 保育実習Ⅰ（2年後期選択必修科目 2 単位）
- 幼児教育演習（3年必修科目 2 単位）
- 卒業研究演習（3年必修科目 2 単位）
- 卒業研究（4年必修科目 4 単位）
- 幼児教育体験学習（1年集中必修科目 2 単位）

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

私の教育理念・目標は、以下の2点である。

- ①学生が幼児教育・保育に関する専門的知識と実践力を身に付けること
- ②学生が大学内外のヒト・モノ・コト（全ての環境）に自立的に関わり、一人の人間として、女性として、保育者として感謝する心と態度を身に付けること

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

- ①授業においては、学生の主体的能動的な授業参加を促すためにグループワーク、ペアワークなどのアクティブラーニングをできる限り取り入れている
- ②保育現場に則した教材（テキスト、視聴覚教材、保育教材、児童文化財など）を用意している

### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

授業においては、講義、演習（ワークシートなど）、振り返りの循環を確認した（エビデンス1）。新カリキュラムに即した教材（エビデンス2）を使用して



いる。また、演習科目（乳児保育Ⅱ、保育実習演習Ⅰ）で実施した実技指導では、保育内容に関する具体的実践の理解が促されたと考えている。

5 今後の目標（これからどうするか）

個々の学生の学修到達状況をふまえた課題内容をさらに工夫したい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1 リアクションノート（非公開）

2 テキスト 乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、子育て支援、子ども家庭支援の心理学、幼児理解の理論と方法、保育実習演習Ⅰ（事前事後指導）で使用

(記入日：2023 年 2 月 21 日)

## 1. 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

### ①幼児教育学科専門科目

保育者論（1年、選択必修科目、後期2単位）

子ども家庭福祉（1年、選択必修科目、後期2単位）

幼児教育体験学習（1年、集中必修科目、2単位）

幼児教育演習（3年、選択必修科目、通年2単位）

保育実習演習Ⅱ（事前事後指導）（3年、選択必修科目、通年1単位）

保育実習Ⅱ（3年、選択必修科目、通年2単位）

子どもの福祉と行財政（3～4年、選択科目、前期2単位）

卒業研究（4年、必修科目 通年4単位）

### ②共通教育科目

簿記（1）（1～4年、選択科目、前期2単位）、

簿記（2）（1～4年、選択科目、後期2単位）

キャリアプランニングⅡ(1)（1～4年、選択科目、後期2単位）

## 2. 理念（なぜやっているか：教育目標）

### ①幼児教育学科専門科目

・学生が子どもや利用者さんを含めた対象者に対する制度や政策を理解し、さらに子どもや利用者さんを巡る現代の問題について理解し、事例を通して保育士としてその問題について必要な知識や方法を考え保育士としての役割や保育所の役割機能そして、保育所を巡る専門機関や専門職との連携について考え学ぶ機会を提供することである。

### ②共通教育科目

・共通教育科目については、経済が自分の生活の中の身近なものであることに気づき、経済用語を理解し、自分の日々の生活の中でその経済活動を行っていることや身近なものの経済事象を理解し、生活に生かすことを目的としている。

## 3. 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

### ①幼児教育学科専門科目

・教科書とレジュメを使いながら、学生がイメージを持って具体的に学まなべるよう、解説及び動画等による事例の紹介を行い、当事者の状況を理解し課題を意見を共有できるようにしている。また、子どもや利用者さんの理解を深めるために事例研究を行い、その内容を共有することで、他者の考えや他者を受け入れ、支援方法を気づくようにしている。

・子ども家庭福祉の教科書（浦田雅夫編(2020)『新・子ども家庭福祉』教育情報出版）については、一部分担執筆している。

### ②共通教育科目

・身近生活のトピックに合わせながら、簿記の勘定科目の意味等の知識が身に着くように、学生が理解しているか対話をしながら授業を進めている。また日商簿記3級合格を目指し、過去問題を繰り返し解いて、学生自身の理解不足や苦手な部分が変わり、それを克服できるようにしている。

・キャリアランニングⅡ(1)については、出題されやすい分野を学生がイメージしやすいように実生活に即した事例で説明している。また、その上で、その分野に関する過去問題を数種類解き、類似の問題が出た場合も理解できるよう、繰り返し問題を解き、回答するようにしている。さらに自分で自分の住んでいる自治体のことを調べる等、身近なものを調べて興味を持つような形とした。

#### 4. 成果（どうだったか：結果と評価）

##### ①幼児教育学科専門科目

・専門科目については、課題の解答を共有し、他者の意見も知ることで、自主的に学び、自分の表現力を磨き、他者の意見を理解しようとしていることが確認できた（エビデンス1）。レジュメを作成し、重要な部分を明確にし、事例を説明しながら学生の理解を深められるようにした結果（エビデンス2）、子どもや保育を巡る課題について自分から調べるようになった。

##### ②共通教育科目

・経済を身近に感じる教材（エビデンス2）を利用し、さらに課題の解答を共有し、学びを再確認する（エビデンス1）するとともに、自分で自分の住んでいる市町村や興味のある市町村の歴史や施策の取り組みなどを調べることにより、自分のまちに興味をもち、自分で調べる力を養った（エビデンス1）。

#### 5. 今後の目標（これからどうするか）

##### ①幼児教育学科専門科目

・学生同士が授業時間外に子どもを取り巻く課題や保育所や施設の役割・機能を相談、議論し、資料収集、データ収集（ラーニング・コモンズ）し、事前事後学修をより具体的に促すように促す。

##### ②共通教育科目

・学生がホームページ等を用いて、自分の住んでいる自治体や保育所が取り組んでいる内容を調べ、学びと自分の住んでいる自治体の取り組みを理解し、より課題がより具体的になるように促す。

#### 6. エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. 幼児教育学科の学修ポートフォリオ（非公開）

2. 授業のレジュメ（非公開）

3. 教科書

・子ども家庭福祉 浦田雅夫編(2020)『新・子ども家庭福祉』教育情報出版

・保育者論 公益財団法人児童育成協会監修(2019)『保育者論』中央法規

・保育実習演習Ⅱ（事前事後指導） 民秋言他編（2018）『施設実習【新版】』北大路出版

・簿記(1)・(2) 滝澤ななみ（2020）『スッキリわかる日商簿記3級第13版』TAC株式会社

## ティーチング・ポートフォリオ

学科： 幼児教育学科 教員名： 白石優子

(記入日：2022年9月29日)

### 1. 教員の責務（何をやっているか：担当科目）

下記に挙げる保育・教職に係る専門教育科目及び共通教育科目を担当している。

#### <幼児教育に関する専門教育科目>

「人間関係」（2年次 前期 保育士・教職必修科目 2単位 講義）

「幼児教育体験学習」（1年次 通年 必修科目 2単位 演習）

「幼児教育演習」（3年次 通年 必修 4単位 演習）

「教育実習演習（事前・事後指導）」（4年次 前期 教職必修科目 1単位 演習）

「教育実習演習（事前・事後指導）」（4年次 集中 教職必修科目 児童教育学科 1単位 演習）

「基礎ゼミナール」（1年次 前期 必修 2単位 演習）

#### <共通教育科目>

「情報リテラシーAクラス」（1年次 前期 必修 演習）

「情報リテラシーBクラス」（1年次 前期 必修 演習）

### 2. 理念（なぜやっているか：教育目標）

近年、保育や若年世代を取り巻く環境は、刻々と変化し、より複雑になってきている。そのような中でも、自らの心理的安全、物理的安全を確保し、さらに保育の専門職として子どもやその養育者の安心・安全に寄与できる人材の育成を目指している。人や社会の多様性を認め、他者と協力し、時代の変化に適応できる知識と技能を取得できるよう、学生が主体的に学ぶ授業展開を意識し、教育に取り組んでいる。

### 3. 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

#### ① 時事問題と関連づけた授業展開

例1) 親子や保育者と子どものコミュニケーションについて、マスク生活による弊害を子どもの認知発達の見点から検討した。「人間関係」

例2) データサイエンスの例として、スーパーコンピューター富嶽による飛沫のシミュレーションを紹介した。「情報リテラシー」

例3) 情報セキュリティ危機の例として、2022年尼崎市でのUSBメモリー紛失事件を紹介した。「情報リテラシー」

#### ② 映像資料の活用

例 4) 家庭での親子の遊び場面観察や乳幼児を対象とした行動実験の映像を紹介し、視覚的資料を提示することで、より詳細な理解を促した。「人間関係」「幼児教育演習」

③ ロールプレイを通じた体験的な学び

例 5) 幼児の遊びと保育者の援助を体験的に理解するため、さまざまな玩具等を使用したロールプレイを取り入れた。「人間関係」「幼児教育演習」

④ ICT の活用と安全な使用に関する情報提供

例 6) 資料の配布、課題提出について、Teams のクラスや課題機能を使用した。「人間関係」「幼児教育演習」「情報リテラシー」「基礎ゼミナール」

例 7) レポート作成等で調べ学習を行う際には、一般的な検索エンジンのほか、学術用途で用いる検索サイト Google Scholar や政府統計等のサイト e-Stat 等を紹介し、学術情報へのアクセスを促した。「人間関係」「幼児教育演習」「情報リテラシー」「基礎ゼミナール」

例 8) ネット依存や SNS におけるリスク等に関する事例や資料を提示し、安全な ICT 利用の重要性を伝えた。小レポートの課題に設定することで学生が自ら調べ、自分の生活に引き寄せて考察できるよう工夫した。「情報リテラシー」

⑤ アカデミックライティングの指導

例 9) 小レポートや期末課題は、個々に添削を行い返却した。とくに、パラグラフライティング、引用文献の示し方、口語表現を避けることなどを指導した。課題によっては、見本を作成し、作成例を具体的に示した。「人間関係」「基礎ゼミナール」

⑥ 双方向型授業

例 10) 授業終了後に質問や疑問を収集し、翌回の授業で回答したり、全体でディスカッションする時間を設けた。「人間関係」

例 11) データサイエンスのテーマでは、学生が考えたデータ項目を使ってエクセルの技術を学んだ。Teams を用いて学生が各自データ項目（たとえば朝食摂取の有無、就寝時間等）を登録し、収集したデータを教員が匿名化した上で学生に公開し、エクセルの機能を使って集計やグラフ作成を行なった。「情報リテラシー」

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

① 時事問題と関連づけた授業展開

学生自身が身近な社会問題に関心を持ち、自らの体験に引き寄せて考察する様子が発表等で見受けられ、有効であったと考えている。

② 映像資料の活用

幼児の観察や実験等の映像では、自ら映像から気づきを得ようとする姿が見られた。発達に応じた視線や表情、手の動き、発声・発話を捉える教材として有効であったと考えている。

③ ロールプレイを通じた体験的な学び

活動が「遊び」として成立するために必要な要素が「楽しい」という感情であることを学生自らが感じ、記述していた。保育者としてのロールプレイでは、どのような言葉をかけてよいのかわからない戸惑いがあるようであったが、幼児役としてどう感じるか、相互に意見を交換しながら検討している姿が見られ、アクティブラーニングとして有効であったと考えている。

④ ICTの活用と安全な使用に関する情報提供

ネット依存をテーマに扱った授業以降、授業中の SNS やチャットアプリの利用が減少した。授業に集中できないほどスマートフォンが気になって仕方がない状況は、エスカレートすると危険であることを学生自らが感じ取った結果ではないかと考えている。

⑤ アカデミックライティングの指導

複数回のレポート添削を経た結果、パラグラフライティング、引用の示し方やレポートとしての体裁を整える等、全体としてはライティングスキルが改善したと考えられる。

⑥ 双方向性の授業展開

学生の参加を促すには有効な方法であったと考えている。授業評価アンケートでも、好評であった。

5 今後の目標（これからどうするか）

様々な観点から教育成果を挙げられるよう工夫したが、一部の学生は課題が多いなど負担感があったようである。後期は、学生の授業外活動や学習に向かう力にも配慮し、不安を少なく取り組めるよう課題設定等を見直したい。また、授業を通じた学びが、実習や卒業後の職業生活にどう活かされるか学生自身が想像できるよう保育現場での体験を踏まえて語るなど、学習意欲を高める工夫を継続していきたい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. 学生が記述する授業内容の要約シート（Teams で提出し、後日コメントをつけて返却した）非公開
2. 学生が提出した小レポートや PPT の課題（Teams で提出し、後日コメントをつけて返却した）非公開
3. 教員作成による授業資料 非公開
4. 学生による授業評価アンケート

## ティーチング・ポートフォリオ

幼児教育学科 山下佳香

(記入日：2022年 8月 24日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

これまで関東圏の保育者養成校に15年間勤務し、2022年度4月より川村学園女子大学の講師として着任し、現在、担当している科目は以下のとおりである。

幼児教育学科 1年生「基礎ゼミナール」前期 2単位

「幼児教育体験学習」通年 2単位

「保育内容総論」後期 2単位

2年生「保育内容環境」前期 2単位

「保育内容環境指導法」後期 2単位

「保育の計画と評価」前期 2単位

「保育実習Ⅰ」後期 2単位

「保育実習演習Ⅰ」後期 1単位

3年生「保育実習Ⅲ」通年 2単位

「保育実習演習Ⅲ」通年 1単位

「幼児教育演習ゼミナール」通年 4単位

4年生「幼児指導法総論」後期 2単位

「環境」に関しては五領域の一つでもあるため、「保育における環境（人的・物的環境）のあり方」を考え、大学構内の自然環境をはじめ、身近な素材や廃材などに目を向け、自分たち自身が直接体験をすることとおして、子どもが遊びの中で表現する面白さや奥深さを考えることから感性を磨くことを目的とした。

「保育の計画と評価」では、そもそも「保育」とは原点を考えながら、子どもたち一人ひとりの発達や良さを大切に「指導計画」を立案し、実習指導では、だれもが楽しく実習に行き、子どもたちと直接触れ合う中で主体的に学ぶ姿勢が身につくよう指導する。実習後の振り返りや実習報告会にも力を入れ、先輩から後輩への学びの場を作り、自分自身で問題解決する能力を高めている。

授業以外の活動として、東京都保育士キャリアアップ研修会にて「乳児保育の環境」「乳児の発達に合わせた保育内容」を月2回行う。また、保育における環境のあり方や造形活動のあり方、子ども達の表現する力を高める造形表現のあり方を幼稚園や保育園に調査に行き、来年度春に

本学紀要と保育者論出版予定とする。また、保育者養成教育学会日誌部会に所属し、「保育実習のあり方」について発表予定である。

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

保育者は子どもの感性に寄り添い、認め、共感しあう中で、子ども自身が主体的に自ら伸びようとする可能性を引き出す役目がある。そこで、保育者を目指す学生が、主体的に行動する中で、様々なことに気づいていけるような指導を常に考えていきたいと思う。そして、その気づきに寄り添い、直面している問題や不安になっていることを、どのように乗り越えたらよいか一緒に考えながら、学生自身が主体的に考えることができるような方法を見つけていける支援を目指している。保育は、子どもに「生きる力」を身につけるプロセスを大切にすることである。知識や技術を身につけることが目的ではなく、環境に興味関心や好奇心を持ち、直接体験しながら様々な気持ちを感じていくことである。直接体験する中で、時には失敗や挫折することもある。しかし、大切なことは結果や成果、見た目ではなくプロセスである。プロセスの中で、様々な感情を体験する中で工夫したり試行錯誤したり、新たな挑戦をしながら達成感を味わい、自己肯定感を構築していくことこそが「保育」なのである。子ども達の育ちを支えていく保育者自身が「自己肯定感」を持ち、問題解決能力を高めていくことこそ、真の保育者として大切な資質であると考えます。

そのため実際の授業では、本日の学びのテーマを掲げ、学生たちから身近な話題や疑問点・問題点を出し、グループディスカッションや KJ 法を行う中で、自分の考えを自由に話し他人の意見を聞きながらまとめ、ドキュメンテーションを作る中で、「自ら学ぶ面白さ」を感じられる授業方法を試みている。すると、学生の出席率はとてもよく、自ら学ぼうと次週の授業内容について質問してくる学生や、準備して授業に臨もうとする学生が見られるようになった。主体的に学ぶことの面白さを実感することによって、子ども達に大切な「主体的に学ぶ面白さ」を自然に保育の中で活かすことができると思う。人間は、体験したことのないことは人伝えることは難しいと考える。保育者養成校では、「アクティブラーニング」を大切にしたい学びの方法を行っていくことを今後も教育の真髄にしたいと考える。保育者養成校では、「アクティブラーニング」を大切にしたい学びの方法を行っていくことを今後も教育の真髄にしたいと考える。

## 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

### 【幼児教育学科 1 年生「基礎ゼミナール」前期 2 単位】

12 名と少人数であるため、一人ひとりが主体的に学ぶことの楽しさが体験できるような環境作りを心がけた。ソーシャルディスタンスをとりながら意見交換やグループワークを行った。具体的な授業内容として、「保育者」を目指す大学生としての意識や自覚の持ち方、レポートの書き方やまとめ方、図



書館の利用方法、プレゼンテーションなど応答的な授業形式をとることができた。レポートは良い箇所を見つけ添削をしながら主体的に再提出ができるような方法をとった。今回の学びが今後の授業や保育者を目指すことに意欲的になるようにしたい。

#### 【幼児教育学科 2 年生「保育内容環境」前期 2 単位】

保育の領域「環境」の意味を考えながら「身近な環境」の魅力や面白さを直接体験しながら感じ感性の豊かさを目的とした。教室環境は指定席にすることで周りとのディスカッションやグループワークを行い、安全や安心した環境作りのあり方を自分たちの教室環境作りから行うようにした。具体的な授業方法は、五領域の「環境」の意味を保育所や幼稚園の VTR を視聴しながら、子ども一人ひとりの姿を感じ、子どもにとって身近な環境のあり方の大切さを学んだ。また、大学構内の自然環境散策から「春の野草を使ってお弁当作り」、園で飼育できる虫・小動物を調べポスター発表する中で、発見や驚きの連続であった。その中で、適切な環境作りや子どもの想像力や発想力の豊かさを大切にした環境のあり方を考える機会となった。毎回の授業時に振り返りシートに記入する形にし、一枚のシートに 15 回分記入できる欄があるため、自分自身で 15 回の授業の見直しや振り返りをすることができた。

#### 【幼児教育学科 2 年生「保育の計画と評価」前期 2 単位】

「保育とは何か」、「教育」と何が違うのか、また出生から未就学児まで「なぜ保育」が大切なのかについて、学生が自由にディスカッションを行い、「教える」「強制する」「強いる」ことではなく、「見守る」「寄り添う」「共感する」など子どものありのままの姿や、子ども一人ひとりの可能性や伸びようとする力を支える、きっかけづくりをする、つまり保育者の環境構成が大切であることを学んだ。子ども一人ひとりの発達や育ちの姿を捉え、時期や季節、子どもの興味・関心に即した指導計画を考えていくことを目的とした。具体的には、子どもの発達段階を年齢ごとに捉え、その時期に合わせた援助のあり方をディスカッションしながら考えた。毎回の授業時に手遊びを行い、「手遊び」の楽しさから「導入」の大切さを学び、子どもにとって「きっかけづくり」の重要性を学んだ。2 月の保育所実習に向けて、子どもの遊びや生活から記録のとり方、主活動の考え方、指導案作成を行った。また、評価という点で「保育所児童指導要録」の書き方も行った。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

「基礎ゼミナール」をはじめ「環境」や「保育の計画と評価」など演習科目であるため、できるだけ学生の発言が聞けるようにディスカッションやグループワークを多くしたことによって、質問なども自然に出ることも多く学生一人ひとりの理解に繋がったのではないと思う。本日の学びの視点を明確にし、学生一人ひとりが授業内容を理解しやすかった。

アンケート結果にも「シラバス通りに進めていた」「理解しやすかった」という意見が多かったと思われる。

る。しかし、事前事後学習のレポートの量が多いという意見が多く、もう少しゆとりを持った課題の提示の仕方をしたいと思う。学生自身が主体的に学ぶことができるような方法を考えていくことが求められると思った。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

本授業者の性格なのか、時間ギリギリまで学生に伝えたい、臨機応変や応用力をつけたいという気持ちから結果学生に多くを求め、教授内容が授業時間いっぱいになってしまうことも多々あった。授業の視点や目標を伝えるが、結局何を言いたかったのだろう…ということなのか…と結論に至らずに授業終了になることもあった。学生は自分で調べ、図書館へ行く機会も増え、結果主体的な授業のきっかけにはなったかもしれないが、もう少しゆとりを持たせる授業内容にしたいと感じる。

実習指導は後期も通じて行っているが、事務的な事項も伝えることも多く、学生主体ではなく若干強制的な指導になってしまうように感じる。事務事項にも大切な意味があり、子どもを預かる施設での実習をすることの意識や自覚を持てるような教授方法を改めたい。そして、学生自身が意味を理解し臨機応変に行動できるような支援をしていきたいと思う。

また、保育内容の授業は繋がっている。その繋がりを大切に「子どもの捉え方」「子どもの育ちの考え方」「子ども一人ひとりに合わせた計画」など、授業の振り返りを他の授業に活かすことができるような、点と点を結び付け統括的に学べるような教授方法を今後の目標としたいと思う。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・学生のポスター発表やワークシート（学内のみ）
- ・ふり返りシート（非公開）
- ・学生課題提出シート（非公開）
- ・学生授業時ノート（非公開）
- ・Forms の記述（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

幼児教育学科 氏名：山下佳香

(記入日：2023年 2月 27日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

2022年度通年・後期

- ・「幼児教育体験学習」(1学年通年2単位)
- ・「保育内容総論」(1学年後期2単位)
- ・「保育内容環境の指導法」(2学年後期2単位)
- ・「保育実習Ⅰ」(2学年後期2単位)
- ・「保育実習演習Ⅰ」(2学年後期1単位)
- ・「保育実習Ⅲ」(3学年通年2単位)
- ・「保育実習演習Ⅲ」(3学年通年1単位)
- ・「幼児教育演習ゼミナール」(3学年通年4単位)
- ・「幼児指導法総論」(4学年後期2単位)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

- ・全学年共通で幼稚園教諭・保育士資格取得に必須科目であるため、「子ども理解」を目的とし、1年生から段階を踏まえて直接・具体的体験をしながら成長のプロセスを理解していくことを目的とする。
- ・身近な環境とかかわりながら、人と協力・協調しながら学びを進めることで「人とかかわる楽しさを共感する」楽しさから工夫・臨機応変など「応答的環境」や「応答的援助」の大切さを学ぶことを目的とする。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

- ・全ての科目において、本日の学びの到達点や到達点へ向けて具体的な方法を示すなど、自分たちの学びの方向性を示した。「保育内容総論」では、秋の季節を感じるために学内散策に出掛け、そこで発見したものを見立て遊びすることによって子どもは何を感じ、何が育つのか考えるために、実際に自分たちが子どもになって動くことで「テーマ」が見えてきた。その「テーマ」に合わせてディスカッションを行い、ポスター発表することで可視化することができた。⇒「学びの面白さ・プロセスの意味」

- ・全ての科目でリフレクションシートを書くことにより、自分たちの学びのプロセスを感じることができ、記録は「感じ・気づきノート」として絵でも記号でも字でも何でも書き、自分が今何を感じ考え、知ろうとしているのか、「自分を知る」ことを心がけ、自分を受けとめることにより他人の気持ちを理解することに繋がる。⇒「自分を知り、相手を受容する」
- ・毎回の授業でくじ引き席決めを行い、楽しくゲーム感覚で授業が始まり色々な人と自然にかかわりが持てるようにし、グループディスカッションを多く行い自分の思いを自由に伝えできるだけ全員が発言できるような態勢をとった。⇒「自分らしさを自由に表現する楽しさ」
- ・できるだけ本物に触れる機会を増やすために、五感を大切にした授業を行うようにした。中でも「幼児教育演習ゼミナール」では、身近な環境に触れる中で五感のテーマを決め、視覚や聴覚を意識した手作りおもちゃの面白さ、触覚や味覚を大切にした乳幼児の食事、嗅覚を大切にした自然環境など「東京おもちゃ美術館」に出掛けて様々なことに挑戦しながら子どもにとって遊びの面白さを体験した。⇒「五感で感じる楽しさ」
- ・五領域の指導法授業（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）では、それぞれの領域が保育の現場でどの様な育ちの姿が見られるのか一つのシートにまとめ、模擬保育をそれぞれの領域ごとに活動を決め、どのように関係し合っているのか考えることができた。五つの領域は保育の中で重なり合っていることを体験しながら考えることができた。⇒「五領域の意味を理解」
- ・「幼児教育演習ゼミナール」ではパソコンでのプレゼンを行い、「保育実習演習Ⅰ」「保育実習演習Ⅲ」ではタブレットを用いて実習事前指導の確認や事後指導のアンケート調査、提出物の添削など効果的に手軽にできることやペーパーレスなど、学生にとっても学習意欲を増す方法の一つになった。⇒「授業方法のICT化活用」

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

- ・「学びの面白さ・プロセスの意味」⇒授業事前・事後学習で何をしたら良いのか目的がはっきりし、研究室に質問に来る学生も増え、図書館利用する学生も増えた。
- ・「自分を知り、相手を受容する」⇒形に拘らずに思ったこと・感じたことを何でも書くことを伝え、授業中に机間巡視をする中で、「あなたらしさがある

良いよ」と褒めることにより、より学習に対する意欲が増していた。友だち同士を褒める学生も増え、プラス思考で考えることが自然体ででき、「リフレミング」効果が出た。

- ・「自分らしさを表現する楽しさ」⇒環境の最大の醍醐味は「人と人とのかかわりや面白さ、寄り添う、一期一会」であると学生のリフレクションシートに記されていた。
- ・「五感で感じる楽しさ」⇒子どもの頃に行った遊びや初めてのことにチャレンジする楽しさを感じながら達成感や充実感を感じ、「幼児教育演習ゼミナール」では欠席する学生は0であった。
- ・「五領域の意味」⇒保育における五領域の意味や領域一つひとつの意味が理解できた。
- ・「授業方法の ICT 化活用」⇒タブレットやパソコンの活用方法によっては、色々なプレゼン方法があることを学生自らが実践した。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

- ・「目標と目的の違い」や「自発性と主体性」の違いのように、物事には段階やプロセスがあることを大切にし、成果や結果ばかりを求めるのではなく、学びのプロセスの意味を理解することが「子どもの成長理解」に通じることを大切にしたい。⇒附属保育園との交流を図りながら「子ども理解」を深めたい。
- ・「保育内容環境の指導法」のように、他教科との協業態勢を作り、教員間で協力態勢を作ることによって、学びの連続性や共通性など学生と共感しながら授業を行っていききたい。
- ・ICT を活用した様々な授業方法を行いながら、学生の学びの幅を広げていきたい。（電子黒板や電子紙芝居、動画・写真を用いたリアル授業、直接体験と間接体験（バーチャル体験）の違いなど）

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・学生のポスター発表やワークシート（学内）
- ・リフレクションシート（非公開）
- ・学生課題提出シート（非公開）
- ・学生授業時ノート（非公開）
- ・Forms の記述（非公開）